

御池の生態系守れ

外来種駆除へ釣り大会

外来魚の釣果を競った釣り大会



外来魚防除釣り大会（小林高原野尻漁協主催）は22日までの2日間、高原町の御池・皇子港であった。約100人が参加。ルアーや餌釣り、従来の生態系に被害を与えるブラックバスなどを釣った。ブラックバスとブルーギルの2部門で釣果を競い、リリィスしないというルール。参加者は外来魚がいないようなポイントを見つけて釣り糸を垂ら

し、手応えを感じては釣りさおを立ててリールを巻くなどしていた。釣果は2日間合計でブルーギル789匹、ブラックバス23匹。1日でブルーギル22匹を釣り、駆除に大きく貢献した愛好家も。70匹以上のブルーギルを釣った小林市北西方、農業深草敷さん(73)は「昨年よりも釣れている。時間きりぎりまで頑張りたい」

と話していた。魚は小林高原野尻漁協が引き取って埋却処分した。御池では近年、外来魚が大量に繁殖。アユやオイカワ、ワカサギなどの在来魚が捕食され激減しているという。同漁協では毎年、ワカサギやアユの卵の放流などを行っている。同漁協の丸田毅組合長は「できる限り駆除しないと在来魚が死滅する恐れがある。今後取り組んでいきたい」と話している。

サンゴバ

★ぬるり、格闘ウナギを放流

7.8.29 8日

串間市・秋山小（福島啓介校長、17人）の全校児童が28日、学校近くの秋山川でウナギを放流した。写真。川の生き物に親しんでもらおうと、同市の内水面漁協が宮崎市で養殖されたウナギ17キを用意。川に浮かべられた直径1メートルのプールからウナギをつかんで川に放した。子どもたちは体長30センチほどのウナギのぬるぬるとした感触

と格闘。逃げられたり、うまく捕まえたと思ったらスリと抜け落ちたりして、歓声が上がっていた。5年の近藤雄太君(10)は「難しかったけど、つかめた時は楽しかった。ウナギがスクスク育つように、川にごみを捨てないようにしたい」と話していた。

